

[畑作部門 令和6年度 参考となる研究成果]

事項名	津軽地域の大豆圃場で初めて確認されたイチモンジカメムシの特徴		
ねらい	近年、大豆吸実性カメムシによる被害が散見されていることを受け、津軽地域においてフェロモントラップによる調査を実施した結果、イチモンジカメムシが誘殺された。本種は暖地性かつ大豆子実加害能力が高いとされる害虫であることから、その特徴を示し、診断と防除対策上の参考に供する。		
内容	<p>1 発生状況 発生地点：中南地域2地点、西北地域2地点 発生時期：6月下旬～10月下旬 品種：おおすず 発生面積：14～15ha</p> <p>2 種名及び形態的特徴（写真1） (1) 種名：イチモンジカメムシ (<i>Piezodorus hybneri</i>) (2) 成虫の体長は9～11mm内外。体型は長楕円形で、体色は淡黄褐色～淡黄緑色。前胸背に紅色又は白色の横帯を有し、横帯の前後は暗色を帯びる。</p> <p>3 発生生態（図1） (1) 本州、四国、九州及び西南諸島に分布する暖地性の害虫で、成虫で越冬し、年2回又はそれ以上発生する。 (2) 成虫は6～7月頃と8～10月頃に誘殺される。 (3) 周辺環境に樹木の多い圃場で発生が確認されている。</p> <p>4 大豆吸実性カメムシによる被害の特徴（写真2、3） (1) 子実表面の全体あるいは一部に白色～褐色の変色を生じ、種皮下に変色部位が認められる。 (2) 甚被害の場合は扁平粒や奇形粒となり、種皮下に褐変を伴う陥没部位が認められる。 (3) 加害が激しい場合は大豆成熟期の黄化が進展せず、“青立ち”状態となる。</p> <p>5 防除対策 (1) 着莢期～子実肥大中期にかけて、防除指針掲載の薬剤を散布する。 (2) 大豆以外の各種マメ科雑草も寄主植物として利用可能であることから、圃場周辺の除草を行う。</p>		
期待される効果	大豆におけるイチモンジカメムシの特徴を明らかにすることにより、早期発見が可能となり、被害拡大を防止することができる。		
利用上の注意事項	県内全市町村の分布状況と定着性は不明であるため、発見した場合は試験研究機関等に連絡する。		
問合せ先 (電話番号)	農林総合研究所 病害虫管理部 (0172-52-4314)	対象地域 及び経営体	県内全域の大豆 作付経営体
発表文献等	令和4、5年度 農林総合研究所試験成績概要集 北日本病害虫研究会報（第74号）		

【根拠となった主要な試験結果】



写真1 イチモンジカメムシ成虫 (令和4年 青森農総研)

(注) 左: 令和4年10月6日撮影 右: 令和4年10月21日撮影

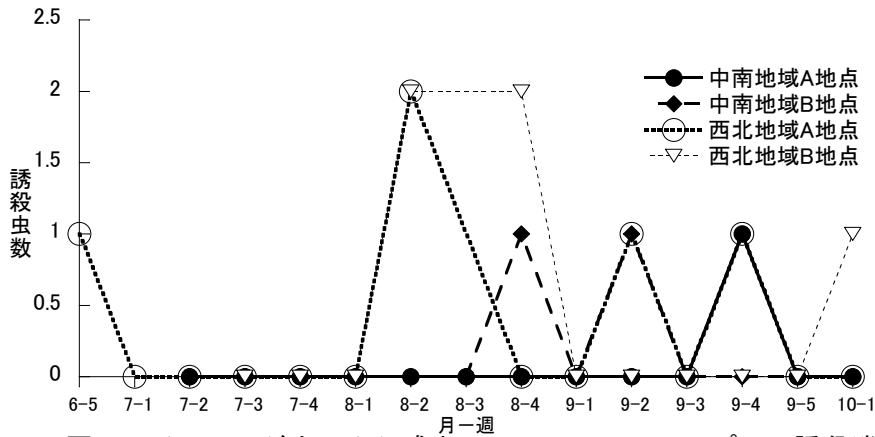


図1 イチモンジカメムシ成虫のフェロモントラップへの誘殺消長 (令和4年 青森農総研)



写真2 大豆吸実性カメムシによる被害粒 (令和4年 青森農総研)

(注) 左: 中被害 右: 甚被害 令和5年2月6日撮影



写真3 被害多発区における青立ち症状 (令和5年 青森農総研)

(注) 令和5年11月6日撮影